

## 戦災と震災

私たちは、3月11日を経験したせいでしょうか、今年の終戦記念日はいつもの年と違って感じられました。

3月11日、大津波が引いた後の街の姿は、想像を絶するものでした。文字通り、街全体が根こそぎ持ち去られたという状況でした。破壊し尽くされ、生命の息吹さえも感じられない、そんな映像を見て、私は、東京大空襲や原爆によって廃墟と化した東京や広島、長崎の写真を思い出しましたが、東日本大震災と戦災とを重ね合わせて感じ取った方も多かったのではないかと思います。

今回の震災によって、多くの方々が家族を失い、また、家や働く場を失いました。地域も、コミュニティが崩れバラバラになろうとしています。更に、孤児となった子ども達は約200名に及ぶといわれていますし、福島第一原発事故により、まるで戦時中の疎開のように自宅に戻れない子ども達も沢山おります。

このように、今回の大震災は、終戦直後の日本の姿を思い起こさせる程、その規模が余りにも大きく、被害も甚大であったということです。

いうまでもなく、戦災と震災は違います。同列に扱うべきものではありませんが、ただ、今回の大震災には、自然の力の大きさだけでなく、人間の力が試された、いや、今まさに試されているという意味では、戦災に共通するところがあると思っています。今回の大震災において、災害への備えは十分だったのでしょうか。過去に大津波を何度も経験していたにもかかわらず、それが防災対策に生かされていたのでしょうか。折角の教訓が生かされず、津波に飲み込まれ亡くなった方が沢山います。

私たちは、今回の大震災の経験も含め、過去の歴史や出来事をしっかりと語り継ぎ、先人の知恵を活かす努力をし続けることが必要です。

また、地震の規模が想定外であったとしても、その後の対策はどうでしょうか。震災発生後、既に5ヶ月が経過しているにもかかわらず、いまだに復興は遅々として進んでいません。

8月15日の終戦によって、日本人は、大きな頸木からの解放を感じたと思います。それが戦後復興へのエネルギーになったのではないのでしょうか。

日本は、敗戦後困難も乗り越え復興したから、今回の災害も乗り越えられるという人がいます。勿論、私もそのように信じていますが、それは口で言う程簡単ではありません。

終戦当時は、国中が疲弊し、国民は飢えに苦しみながら、でも新しい時代の夜明けを感じていたはずです。しかし今は、災害の規模は非常に大きいとはいえ一部の地域での出来事であり、復興に向けても、国民の気持ちは決して一つではありません。日本が、日中戦争から太平洋戦争へと無謀な戦争への道を進んだのは、政治の貧困が原因だったというべきです。

震災からの復興のために、国民は大いなる知恵と力を発揮すべき時です。しかし、今問われているのは、政治力ではないでしょうか。

国難ともいえる状況の中、現状を打破し、道を過たず、新しい日本に向かって再生の一步を踏み出すためにも、政治はリーダーシップを発揮しなければなりません。

（塾頭 吉田 洋一）